

第二章 先駆け

トマトの
温床踏み栽培も
暇季学校で学び

美味しい
トマトを
たくさん
出荷して
いた

作物の
目利きも
学んだ

農民たちは
暇を見つけては
貪欲に学び

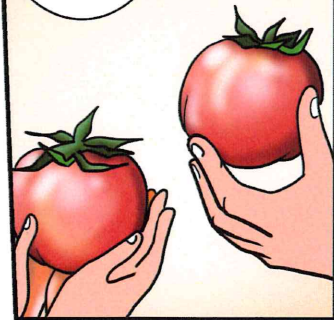
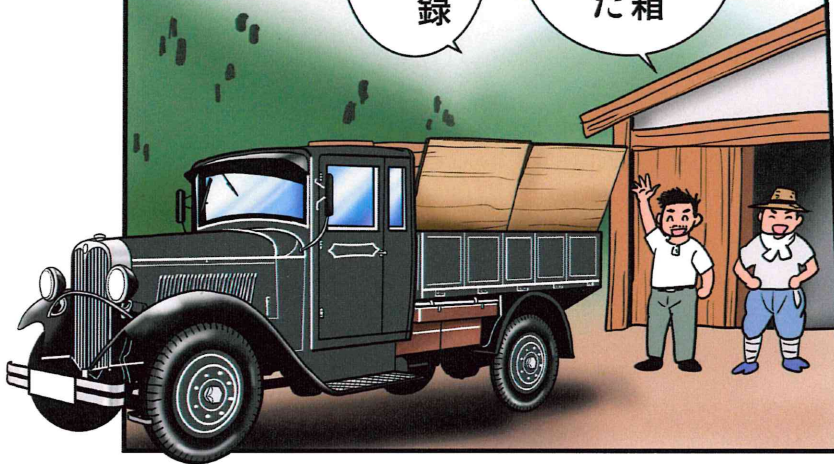
学んだことを
すぐ実地に
取り入れ
収穫に結び
つけていった

「秀」
「ちゃ！」

「こっちは
「優」
「ぢゃな

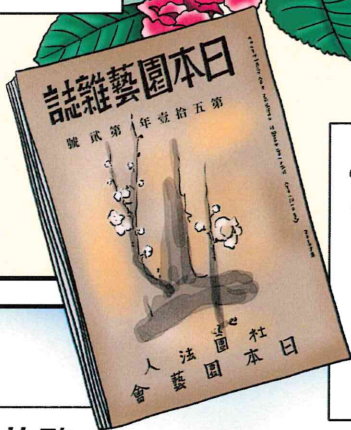
今朝は
240箱
出荷した
ぞ！

最高記録
じゃ！



かき
花卉栽培も
盛んで

シクラメン、
アネモネ、
グロキシニア、
などを栽培、
出荷していた

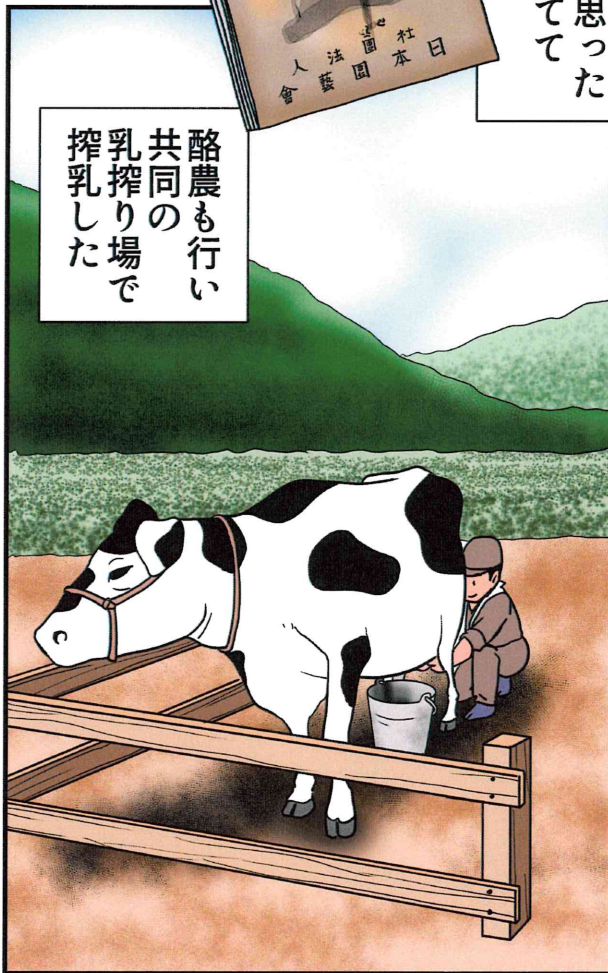


園芸書などの
書物を読んで
いけると思った
作物は育てて
みる

今年は
甲州ぶどうも
よう実った！

あたは
何でん上手に
育てるなあ

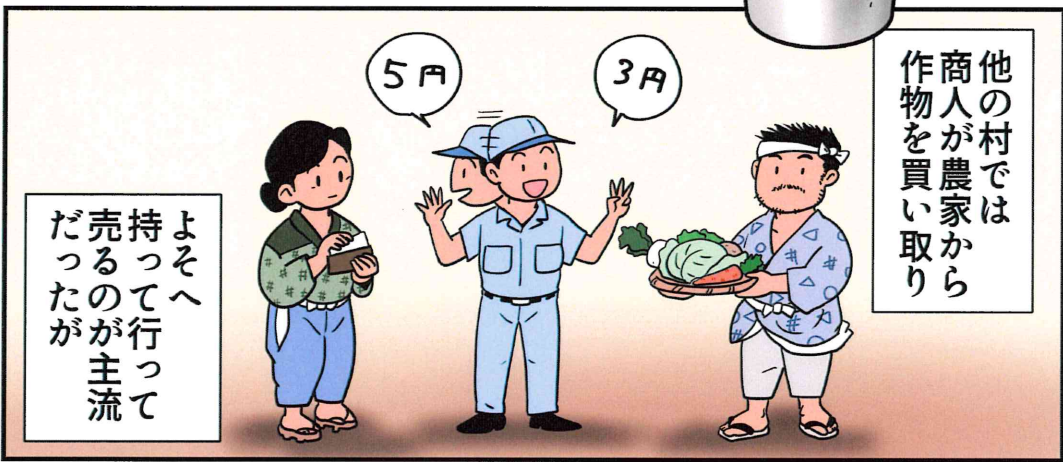
酪農も行い
共同の
乳搾り場で
搾乳した





搾りたての
乳を配達する

搾った乳を
その場で
消毒して

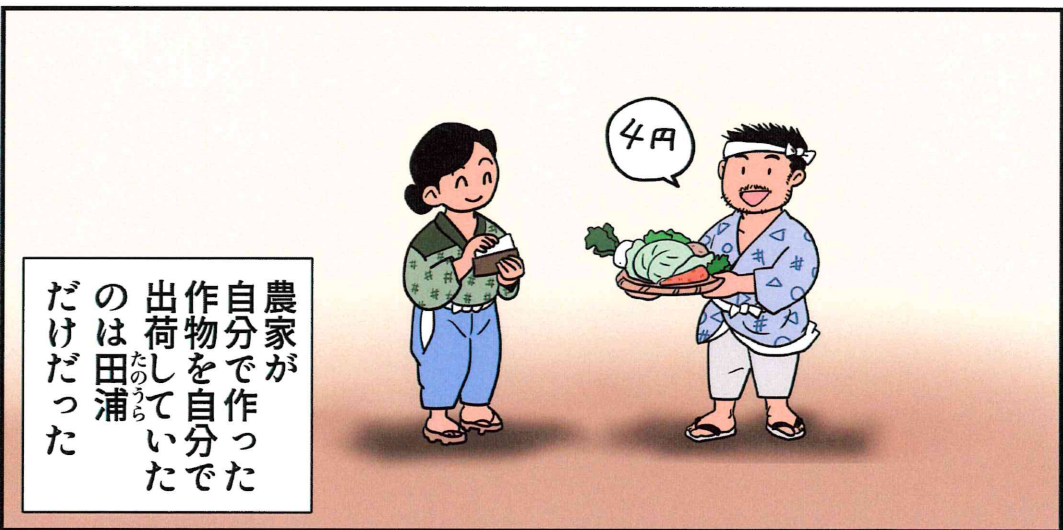


5円

3円

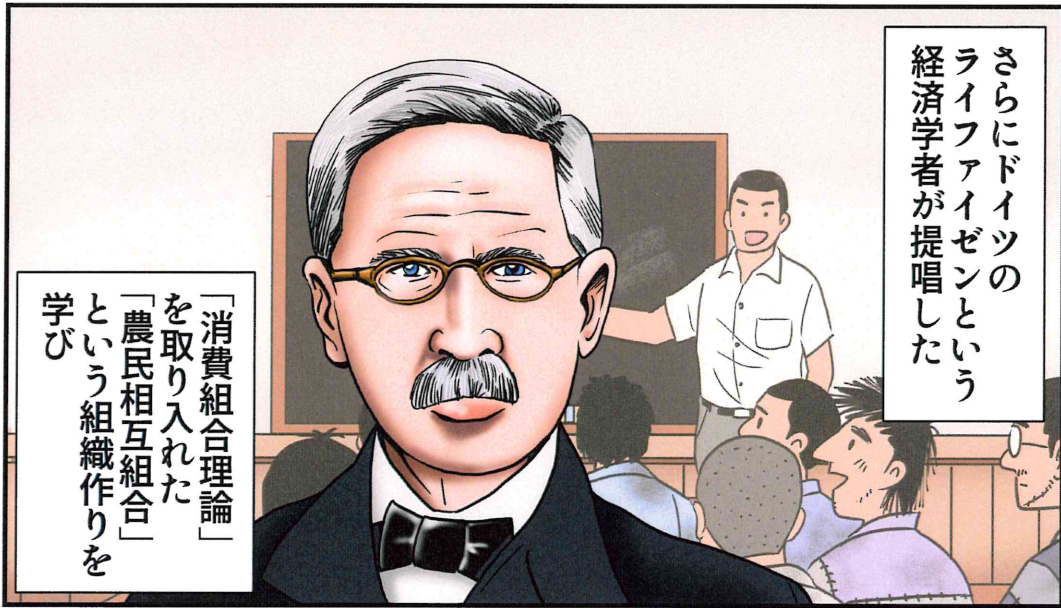
よそへ
持って行っ
たのが主流
だった

他の村では
商人が農家から
作物を買い取り



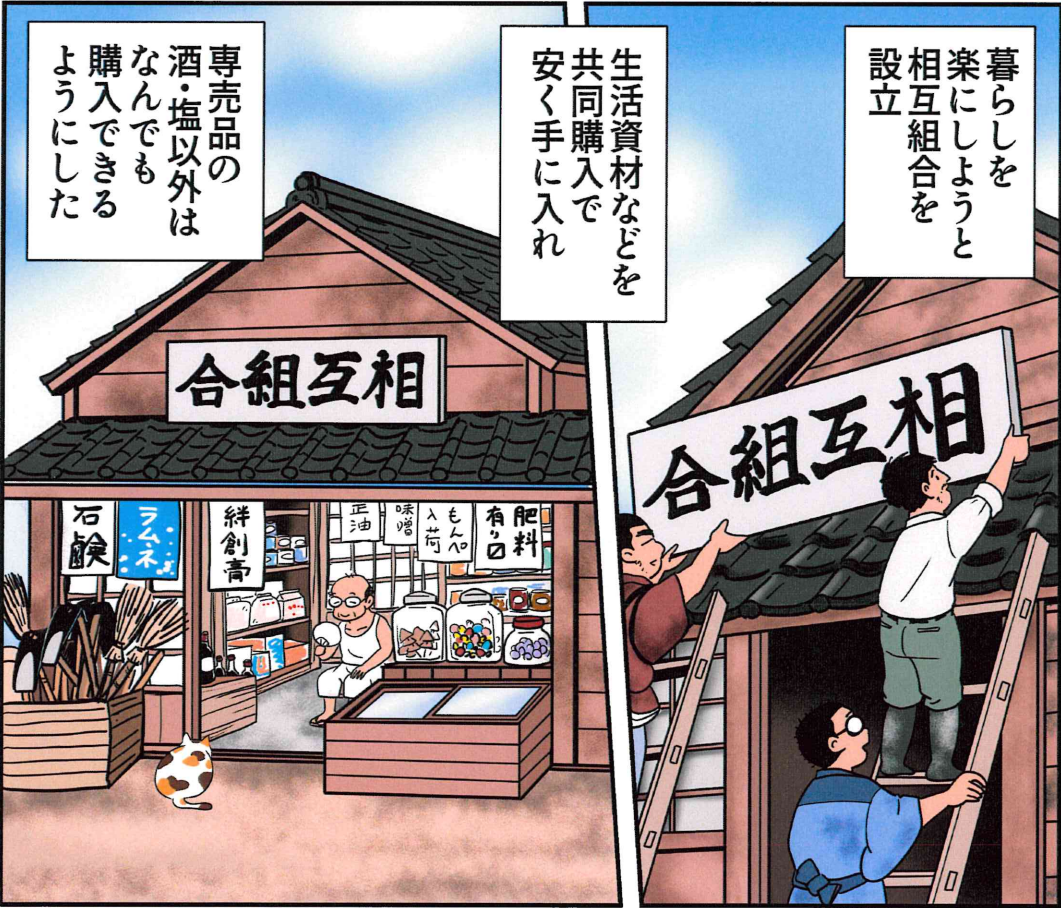
4円

農家が
自分で作っ
た作物を自
分で出荷し
たのは田浦
だけだった



さらにドイツの
ライプハイゼンという
経済学者が提唱した

「消費組合理論」
を取り入れた
「農民相互組合」
という組織作りを
学び



暮らしを
楽にしようと
相互組合を
設立

生活資材などを
共同購入で
安く手に入れ

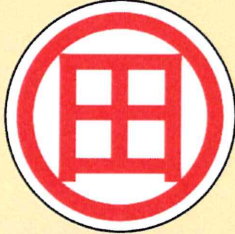
専売品の
酒・塩以外は
なんでも
購入できる
ようにした

相互組合

相互組合

肥料
有りの
もんほ
入荷
味噌
正油
絆創膏
ラムネ
石鹸

千足屋



百選フルツパーラー

たのうら
田浦の
相互組合は
戦前から
日向夏に
ラベルを貼って
出荷していた

市場へ
ではなく
千足屋・高野・
万惣などと
直接取引して
いた

タカフルツパーラー

一個一個
包装紙で
包み

「竹」
45個入りは

「松」
36個入りは

木箱入りの
たのうら
田浦の
日向夏は
他の生産地の
物よりも
単価が段違いに
良かった!

昭和16年！
太平洋戦争
勃発

多くの
若者たちが
出征して
行った

